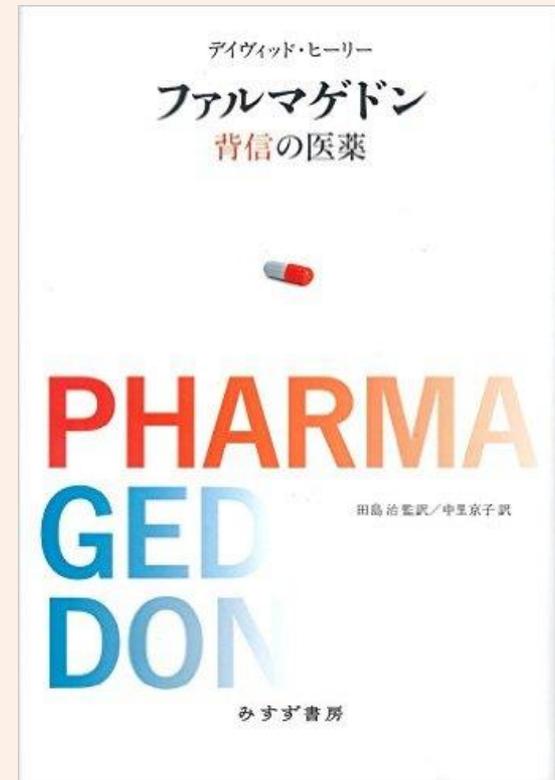
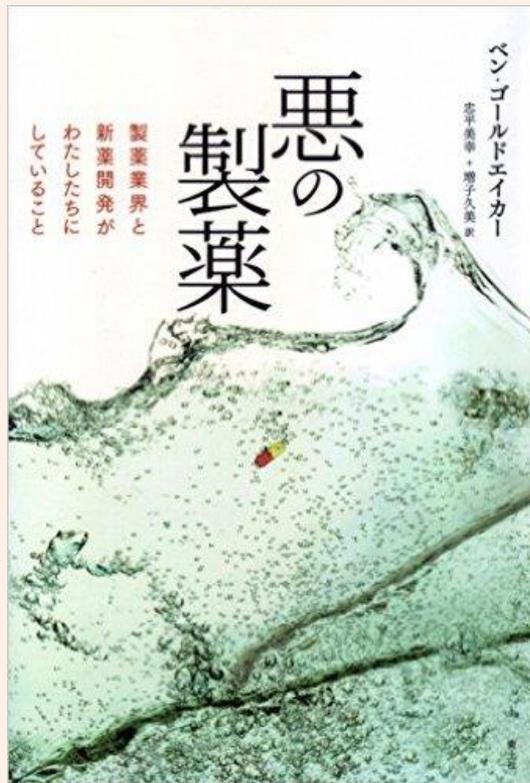


第4回医学ジャーナリスト協会賞
記念シンポジウム
2015年11月6日
鳥集 徹

『新薬の罠』で伝えたかったこと 医療の利益相反の深刻さ



製薬業界による医療の植民地化

- 「病気づくり」のマーケティング
- データ隠ぺい(改ざんだけが問題ではない)
- 都合のいいエビデンスづくり(SPIN)
- ゴーストライターによる論文執筆
- オピニオンリーダー(医師)の養成・利用
- 巨額のマーケティング費用
- 画期的でもない新薬の高額化

パキシル(抗うつ薬)

小児治験を9件実施。最初の2件で有効性なしも、結果は公表されず、大量に小児に投与され続けた。結局、有効性証明できず。

タミフル(抗インフルエンザ薬)

業界の資金援助を受けたメタアナリシスで、臨床試験10件のうち論文化は2件のみ。コクランとBMJが情報開示を要求。結果、肺炎や入院を減らす十分なエビデンスはなかった。



欧米ではスキャンダル。日本では？

製薬会社＝薬を売るのが仕事

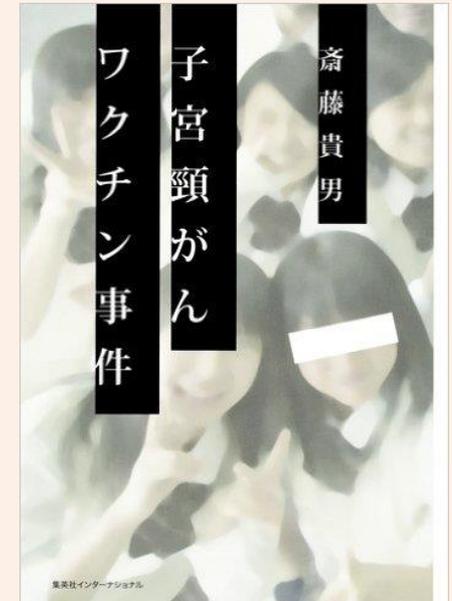
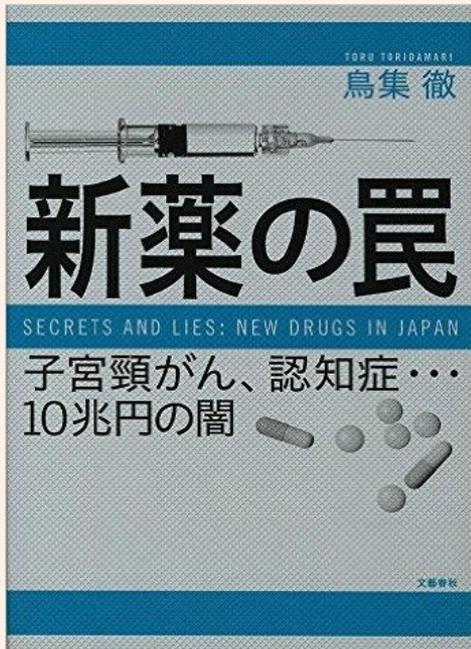


医師、医療職の仕事は？
ジャーナリストの仕事は？



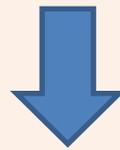
薬の有効性・安全性を厳しくチェック
人びとの健康を守る

子宮頸がんワクチンを厳しく検証もせず 普及啓発キャンペーンに乗ったのは？



これからの医療ジャーナリズム

- ニセモノのエビデンスを見抜くEBMのセンス
- 医療の利益相反を厳しく監視
- 製薬会社のマーケティングに利用されない
- スポンサーに配慮せず、言うべきことを言う



医療費40兆円突破、過剰診断、多剤併用、薬害。。。は、我々にも責任があります。